

会議録（１）

会議の名称	第15回飯能市地域公共交通対策協議会
開催日時	令和3年10月20日（水） 開会 午後1時30分 閉会 午後3時25分
開催場所	飯能市役所本庁舎5階 第1・第2委員会室
会長氏名	飯能市長 新井 重治
出席委員	吉田 樹、関根 康洋、松原 緑、榎本 聡、和田 毅、 野口千賀雄、町田 昇、渡辺 正幸、石井 英子、小川ゆかり、 遠藤 照夫、浅見 国昭、平沼 弘、大野 康、双木 和宏、 伊藤太佳博、渋谷 秀一、新井洋一郎、町田 守弘 (中村 浩幸 代理 小平 隆宏) (宗口 義克 代理 梶浦 大輔)、 (古島 照夫 代理 沼崎 修一)
欠席委員	堀米 康史、関根 肇、山本 道夫、齊原 潤、浅見 浩士、 的板 幹雄、平野 功
オブザーバー	国土交通省関東運輸局交通政策部交通企画課長 板垣 友圭梨
説明者の職氏名	飯能市市民生活部長 大野 充 飯能市市民生活部生活安全課交通政策室室長 佐野 敬子 飯能市市民生活部生活安全課交通政策室主査 山田 祥平 飯能市市民生活部生活安全課交通政策室主任 井戸入大輝 西武ハイヤー株式会社業務部長 藤原 康之 ※議題（１）及び（２）のみ
傍聴者の数	1名
会議次第	別紙のとおり
配布資料	別紙のとおり
事務局職員職氏名	飯能市市民生活部長 大野 充 飯能市市民生活部生活安全課交通政策室室長 佐野 敬子 飯能市市民生活部生活安全課交通政策室主査 山田 祥平 飯能市市民生活部生活安全課交通政策室主任 井戸入大輝

会議録（２）

議事録の概要（経過）・決定事項

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 事

事務局から資料に基づき説明した。

（１）飯能市乗合ワゴンの本格運行案について

以下の資料に基づき、事務局から説明した。

- ・【資料 1】飯能市乗合ワゴン実証運行 報告書
- ・【資料 2（-1）、(-2)、(-3)】飯能市乗合ワゴン本格運行 運行案
- ・【資料 2－4】移動円滑化基準適用除外認定申請 資料一式
- ・【資料 2－5】生活交通確保維持改善計画変更届 資料一式
- ・【資料 2－6】飯能市乗合ワゴンの愛称について

・審議結果

審議①：本格運行案の運行内容及び車両の移動円滑化基準適用除外認定申請について

→ 承認。運行事業者から国土交通省に対して各申請を行う。

審議②：飯能市生活交通確保維持改善計画の変更届について

→ 承認。事務局から国土交通省に対して当該変更届を提出する。

審議③：愛称の決定について

→ 承認。

（２）ノーマイカーデーについて

以下の資料に基づき事務局から説明した。

- ・【資料 3】2021 はんのう市ノーマイカーデー 事業企画書（案）

→内容について承認された。

（３）国際興業バス支線路線の最適化及び国庫補助申請について

以下の資料に基づき事務局から説明した。

- ・【資料 4】国際興業バス支線路線の最適化 運行素案

→内容について承認され、国の地域旅客運送サービス継続事業の枠組みで事業を進めていくことが決定した。

(4) その他

以下について事務局から報告した。

- ・「令和3年度飯能市地域公共交通事業者支援金」の創設について
- ・名栗地区でのグリーンスローモビリティ実証実験について

路線バス事業者、飯能市タクシー協議会、鉄道事業者から輸送事業の近況報告が行われた。

4 その他

事務局から以下について報告した。

- ・次回協議会について連絡
- ・「路線バス途中下車の旅（10月・11月・12月）コース」（石井委員主催）について連絡

5 閉 会

会議録（３）

発言者	発 言 内 容
事務局長	(開会) (上副市長の退任により、新井市長が新会長となる旨、報告)
会長	(挨拶)
事務局長	(欠席委員等の報告) (オブザーバーの紹介) (協議会公開の旨報告) (傍聴人報告、１人)
事務局長	それでは、議事に移らせていただきます。議事の進行につきましては、協議会開催要綱第５条により、本協議会の会長であります新井会長にお願いいたします。会長、よろしくお願いいたします。
会長	それでは、議事を進めさせていただきます。 まず、「(１) 飯能市乗合ワゴンの本格運行案について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。
事務局	本議題のご説明に入ります前に、飯能市乗合ワゴンの運行事業者である西武ハイヤー株式会社様に本協議会の場に出席をいただくことに関しまして、ご了承をいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。
会長	ただいま事務局から、運行事業者である「西武ハイヤー株式会社」様の出席を求める発言がありました。 皆さまご了承をいただけますでしょうか。
委員	(異議なし、の声あり)
会長	ありがとうございます。それでは、西武ハイヤー株式会社様には、関連する議事の間ご出席をいただきます。 (西武ハイヤー(株) 入室)

会長	それでは、あらためまして議事の「(1) 飯能市乗合ワゴンの本格運行案について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。
事務局	・資料に基づき説明
会長	ただいま事務局から飯能市乗合ワゴンの関係について説明がありました。委員の皆さまからご意見、ご質問等ございますか。
委員	(なし)
会長	無いようですので、これより審議に移りたいと思います。 審議案件については、3件ございますので、案件ごとにお諮りします。
会長	まず、飯能市乗合ワゴンの本格運行の運行内容及び運行車両につきまして、資料に示しましたとおり、本協議会で協議が調ったものとして、国土交通省に申請してよろしいでしょうか。
委員	(異議なし、の声あり)
会長	ありがとうございます。続いて、飯能市乗合ワゴンの運行に対して国庫補助を受けるにあたり認定をされている「飯能市生活交通確保維持改善計画」につきまして、資料2-5のとおり変更届を提出してよろしいでしょうか。
委員	(異議なし、の声あり)
会長	ありがとうございます。 最後に、飯能市乗合ワゴンの愛称について、「おでかけ むーま号」として決定してよろしいでしょうか。
委員	(異議なし、の声あり)
会長	ありがとうございます。 それでは、飯能市乗合ワゴン“おでかけ むーま号”の本格運行に関する許可申請につきましては、運行事業者である西武ハイヤー株式会社様から、また、

	<p>国庫補助に関する「飯能市生活交通確保維持改善計画」の変更届につきまして、事務局から、それぞれ本協議会で協議が調ったものとして国土交通省に提出させていただきます。</p>
会長	<p>それでは次に進めさせていただきます。</p> <p>議事の「(2) ノーマイカーデーについて」を議題といたします。事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>・資料3に基づき説明</p>
会長	<p>ただ今の件につきまして、委員の皆さまからご質問、ご意見等ございますか。</p>
委員	<p>例年、飯能市ではこのとおりノーマイカーデーを行っており、今年は「乗合ワゴンに乗ってみようキャンペーン」を行うことと思うが、当キャンペーンは、通常のノーマイカーデーの内容とは別に行うということによろしいか。なぜこのような質問をするかということ、昨年は日高市と一緒に実施していたが今年はやらないのか、という疑問があり、それは飯能市の乗合ワゴンのキャンペーンの影響によるものなのか確認したい。</p>
事務局	<p>昨年度は、埼玉県補助金を受けて日高市と共催で本事業を実施したが、今年度は日高市と共催で行うことができなくなったことについて、予算確保を伴う関係で、両市で足並みを揃えて行うことができなくなったということである。しかし、所沢市、狭山市、入間市、日高市と共に構成するダイアプラン5市において、このノーマイカーデーを共同で実施できないかという検討をしているところであり、今後も継続して検討していきたい。今年度については、乗合ワゴンのキャンペーンを実施したから日高市との連携ができなくなったわけではないので、その点ご了承ください。</p>
委員	<p>分かりました。もう1点関連してお伺いする。今回、電子申請で手続を行うとのことだが、この点参加者からすると手間だと感じるが、乗合ワゴンに参加証を提示すると無料で乗車できるというメリットを押し出すことで申請してもらい、併せてアンケートにも答えてもらうという認識でよろしいか。</p>

事務局	<p>今回は電子申請を行い、その点ハードルにはなるかと考えている。しかし、従来は周知の関係を紙媒体を中心に行っていたが、その点について事業の取組の資料にもあるが、期待する効果として「温室効果ガスの排出削減」をあげており、今後は紙を大量に使うということ避けたいという狙いもあって電子申請を活用する方法をとっている。なかなか電子申請をできる方が限られるという懸念はあるが、今回の結果を踏まえて実証的に行っていきたい。</p>
委員	<p>了解しました。周知が重要と思われるので、よろしくお願ひしたい。</p>
会長	<p>ありがとうございました。他にございますでしょうか。</p>
委員	<p>2点伺いたい。今回、電子申請になり、新たなインセンティブとして乗合ワゴンに無料乗車ができるようになる。この点がアメ、メリットとなるかと思う。当初、飯能市の公共交通の取組の中でノーマイカードーが始まった際に、特に市の職員の皆さんの車を中心とした生活の活動を、公共交通の方にも目を向けてもらおうというところが最初の起点であり、その後、日高市との連携などにあるように活動が広がり、また今回は違った眼差しで取り組むものと理解している。</p> <p>一方で、昨年度の取組からはいわゆるコロナ禍で公共交通を控える傾向がある中で、公共交通が安全・安心に利用することができるというメッセージを伝えたいということも文脈としてあると思う。その中で、大事になっていくのが、資料3の「周知」の部分にあるとおり、一般の市民にどのように伝えていくのかという点である。例えば、今回の広報記事についてはどのくらいの紙面となるのか。</p>
事務局	<p>A4のページの半分程度の予定である。</p>
委員	<p>そうなったときに、特に60歳以下の世代に拡げていくとなった場合、少し周知のチャンネルを増やした方がいいと考える。例えば、12月末になると子どもたちが冬休みシーズンになり、新しく可愛らしいワゴンが走っていると子どもが乗りたがるかもしれない、それが親御さんにも訴求するかもしれない。</p>

	<p>実は先日、福島県内のある公共交通会議においてある高校の校長先生の発言によると、通学定期の申請手続の中で、高校2～3年生は従来通りの申請数だが、1年生は例年の半分である。つまり、新しく高校に入学した1年生がコロナ禍で入学し、保護者が送迎できるようなかたちで高校を選択したり、あるいは今まで以上に公共交通を使わなくなったという状況がある。そうすると、去年も公共交通が厳しかったが、今年はそれ以上に厳しくなり、来年の1年生も同じ状況だともっと厳しくなっていく。保護者が気にされているということについて、いくつかの学校の先生からお話があったことが非常に印象に残っている。そう考えると、周知の面で子ども達の保護者世代にも伝えることが必要で、子どもたちに関心をもってもらい、公共交通を楽しく使ってもらえるきっかけにうまく繋げていけるといいと思う。しかし、如何せん子どもはスマホをもっていない子が多いので、そのあたりの論理をどうするのかなど長期的な視点で訴求できる方法を併せて検討されたい。</p>
事務局	<p>現在利用されている方以外の60歳以下の方に乗合ワゴンを使っていただきたい、または公共交通全体として公共交通利用を皆さんに自分事として考えていただくことは大切なことである。今回のキャンペーンは電子申請として取り組むが、保護者世代は電子申請が簡単にできると考えているので、広報記事のみならずSNSなど活用し、新しい形で発信していきたいと考えている。また、明日となるが、石井委員からの要請で出前講座を開催し、路線バスの現状についてお話をさせていただく機会を設けていただいている。市民に対し、公共交通の現状を知っていただき、皆さんで乗っていただく、行動に移していただくということについて、今後もSNSなど様々な媒体、機会を通して発信していきたい。</p>
会長	<p>他にございますでしょうか。</p>
委員	<p>違和感があったのが、事業名である。ノーマイカー「デー」となっているが、期間は1か月間である。また、乗合ワゴンも週3日の運行である点など、その点、事業名とのバランスはどうかと思った次第である。</p>
事務局	<p>事業名については、事業を開始した5年前から名称を変えていない。当初市の職員に対して啓発を開始したときのものを継続しており、事業の実態と事業</p>

	<p>名称が合っていない状態が生じている。今回はノーマイカーデーとして実施させていただき、今後のご意見を踏まえて検討をしていく。</p>
会長	<p>他にございますでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。ないようですので進めたいと思います。</p>
会長	<p>ここで、関連する議事が終わりましたので、西武ハイヤー株式会社様については、ここでご退席いただきたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>(西武ハイヤー(株) 退席)</p>
会長	<p>それでは次に、「(3) 国際興業バス支線路線の最適化及び国庫補助申請について」を議題といたします。事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経緯について説明 ・資料に基づき説明
会長	<p>まずは、この件につきまして、運行事業者である国際興業株式会社様、補足事項などございますでしょうか。</p>
委員	<p>今事務局からの説明のとおり、10年以上前から当該路線を維持するために市から支援をいただきながら運行を続けてきた。収支は非常に厳しい状況が続いており、市と以前から当該路線のあり方について継続的に意見交換を実施し、地域住民への利用促進等をお願いしてきた状況である。ご存じのとおり、昨今のコロナ禍になり、テレワークの推進、学校の休校、またWEB授業となり、バスをご利用いただく方の状況はさらに厳しくなっているという実態である。当社においては飯能地域以外に池袋、赤羽、川口、浦和、大宮という地域でバス運行を行っているが、それらの地域と比較しても、飯能地域の利用状況は回復が鈍い状況である。企業努力として、金額式IC定期券の導入、バ斯特割引の廃止、ワンコインゾーンの廃止など路線維持を模索してきたが、利用者の増加傾向が見られないというのが実態である。先ほども申し上げたとおり、コロナ禍で乗合バス全体の収入も減少しており、当該路線赤字を吸収できなくなっていることが率直なところであり、今回のご報告に至っている。</p>

会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>また、事務局からの説明にありましたとおり、国の定める「地域旅客運送サービス継続事業」の枠組みの中で、路線の最適化を行うということですが、この件に関しまして、オブザーバーである関東運輸局交通企画課長の板垣様、ご発言をお願いいたします。</p>
オブザーバー	<p>本日はオブザーバーとして参加させていただき、ありがとうございます。今ご紹介のありました「地域旅客運送サービス継続事業」については、昨年度の法改正で新しくできた事業で、これは実際に色々な地域で起きてることであるが、路線バスが厳しい状況にあり、事業者による運行継続が難しくなっている事例に際して、その後についてうまく継続していくという目的で新しく作られた制度である。関東では未だ適用事例はなく、全国でも引き続き議論がされているところではあるが、今回国際興業様から申し出があり、飯能市でご検討されるとのことなので、私もこの場に参加させていただいている。この後の交通をどうしていくのかについて、市、住民、事業者の三者が一緒になって議論しながら最適なものにしていく必要があるので、活発に議論をしていただき、法律的な部分や補助金の部分など、そういったところは我々も相談に乗りながら、寄り添ってやっていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いしたい。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>続いて、本市の公共交通政策について、長年、アドバイザーをお務めいただいております、福島大学の吉田様、この件についていかがでしょうか。</p>
委員	<p>前回の協議会からも委員の皆さんに資料が出された案件であるが、先ほどもありましたとおり、国際興業として現状の運行形態のままでは維持困難ということを示されたということになります。今、交通企画課長からもこの制度について若干の説明があったところだが、実際この公共交通の協議会の中で、維持困難ということを示していただく。その後、具体的にどのように市民の皆さんの暮らしの足というものが確保できるのか、または新しく確保された暮らしの足について、国の様々な支援制度を講じながら維持を図っていこうという仕組みになっている。飯能市の場合、ご案内のとおり既に色々なかたちで郊外部の移動手段の確保というものを進めてきたという経緯があり、この件についても事務局と議論しているところである。例えば、資料4の中藤・中沢線であ</p>

	<p>れば、昼間の時間帯は「新寺」で乗り換えをしていただく必要はあるが、これまで行けなかったエコス方面には直接アクセスできるようになる。あるいは、間野黒指線についても同様に、南高麗診療所やアルプスにはアクセスすることができるということで、今までより車両が小さかったり、場合によっては乗り継ぎをしながら飯能駅周辺まで出てきていただくという必要があるかもしれないが、その分利便性を高めていこう、あるいは、朝晩であればスクールバスを活用しながら確保することができないだろうか、など現実には色々な案を事務局で考えていただいているところである。また、去年の地域公共交通活性化再生法の改正に伴い、輸送資源の総動員という言葉が使われているが、つまり、地域の移動手段をかけ合わせ、重ね合わせをしながら、なんとか移動の利便性を確保していこう、あるいは今までできなかったことにチャレンジしていこう、というところを国としても応援していきます、という流れになっているところである。関東地域だと交通事業者の自主運行、自主努力というところでやる土地柄であったため、近隣に同様の事例がそうあるわけではないが、今まで飯能の場合も吾野地区の有償運送やリハビリ館の送迎サービスへの混乗など、色々な取組をやってきたという経緯もあるので、私の方も引き続きお手伝いさせていただきますながら、今回の件も検討していきたいと考えている。</p>
会長	<p>ありがとうございます。本件につきまして、委員の皆様からご質問やご意見などありましたら、よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>1点確認で、再編案の中で国際興業バス路線の廃止あるいはイベント時のみの運行ということであるが、廃止関係のスケジュールを教えてください。</p>
事務局	<p>先ほどの資料4-3を参照されたい。実証運行の開始を令和4年7月予定としている。実質、この前の6月までで路線が廃止されるという認識でいる。</p>
委員	<p>手続的な話で、廃止手続を埼玉運輸支局に直接出すものと、埼玉県を通して出すものがあるが、イメージ的には実証運行開始と共に廃止するというように受け取れたので、この前の2～3か月間で廃止手続を完了するという認識であるが、その点確認したい。</p>

事務局	<p>事業者による手続のため、その点は細かく市と連携はとっていないが、市としては実証運行開始と併せて廃止となるとすると、本協議会にも諮らせていただくことになると思われる。</p>
委員	<p>今の点で補足させていただく。私が今回のようなサービス継続事業に関わるのは2例目である。1例目が中部運輸局管内の沼津市がそれにあたるが、沼津市の場合、7月の段階で今回のような宣言の段階に入り、現在粛々とその準備を進めているところであるが、通常の場合、廃止申請は6か月間が基本となる。ただ今回の場合は市内で完結している路線であること、各地区の検討会等でも議論がなされること、最終的には本協議会でその代替案について議論されることになる。その場合、本協議会は道路運送法に基づく地域公共交通会議を兼ねているため、協議会の承認があれば「1か月前ルール」というものが適用される。つまり、協議会で最終的にこの路線は廃止すると諮れば、1か月後に廃止をかけられるというものである。おそらくそのルールを使って実際には廃止手続を行うものだろうと考えている。埼玉県内でも他に例がないことかと思うが、1か月前ということになるとこの協議会の開催時期をどうするのか、という実務的な詰めという部分があると思うので、その点は運輸支局や埼玉県との相談が必要になると思う。</p>
事務局	<p>分からないことも多いが、色々皆さんにご相談をさせていただきながら、最終的には協議会にお諮りするのでもよろしくお願ひしたい。</p>
会長	<p>他にございますでしょうか。</p> <p>(なし)</p>
会長	<p>よろしいでしょうか。それは次に進めさせていただきます。</p> <p>議事(4)「その他」を議題といたします。事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>以下について事務局から報告した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和3年度飯能市地域公共交通事業者支援金」の創設について ・名栗地区でのグリーンスローモビリティ実証実験について

会長	<p>ただ今の件につきまして、委員の皆さまからご意見・ご質問はございますか。</p> <p>(なし)</p>
会長	<p>よろしいでしょうか。ないようですので、次に移らせていただきます。</p> <p>現在、新型コロナウイルス感染症の影響が依然として大きい中でございますが、本日は市内の各交通事業者の皆さまにお越しいただいておりますので、運行事業に関する現状につきまして、ご発言いただければと思います。</p> <p>まずは、国際興業様、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>ただ今、事務局からありましたとおり、今回支援金をご用意いただき感謝申し上げます。現在の状況について、先ほどの議題の中でも申し上げましたが、コロナ禍に際し大変厳しい状態が続いているということが実態である。コロナ後の社会について、我々はコロナ前には戻らずに80%くらいの戻りになると予測をしていたが、緊急事態宣言が終わった状況をもってしても、80%を回復することができない状況が続いている。また、飯能地域については他の地域より回復具合が緩やかで、他地域よりも15～20%程度売上の回復が遅れているという状況である。会社全体で見ると、朝のラッシュの時間帯は、一定程度回復をしてきているが、それ以外の時間帯、特に平日だと夜の時間帯、土日の回復状況が大変苦しい状況になっている。飯能地域については、朝の時間よりは午前中については戻ってきているが、土日のハイカーの集客状況はまだまだ回復していないため、大変苦しい事業運営を強いられているところである。</p>
会長	<p>ありがとうございます。続いて西武バス様、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>ただ今国際興業様からお話があったとおり、ほぼ同じような状況である。コロナの影響が非常に長期化しており、コロナ前の2019年対比で言うと利用人員及び収入共に70～80%の間で推移している。特にここ数か月は、全営業地域が緊急事態宣言下に置かれ、大変厳しい状況が続いている。10月以降少しでも外出する方が増えると良いと思うが、社会様式の変更を肌で感じており、5～6年のことが1年で来てしまったというかたちで、公共交通、外出機会の離れが非常に顕著である。議題にも関連するが、南高麗の間野黒指線の最適化については、我々の近接する路線もあり、拠点も美杉台地域で近いということもあるので、よく市と調整しながら進めていければと考えている。簡単な</p>

	<p>例を挙げると、飯能駅から青梅線の1路線だけでも2～3,000万円の赤字が生じている状況で、全地域で見ると、収支がトントンの路線のほとんどが赤字に転落しており、全体の路線バスネットワークの維持を非常に大事に思っており、何とか維持しようとするこの2年努めてきたが、その維持が非常に厳しい段階にきている。事業者の自助努力だけでは公共交通としてのバス路線が維持できないレベルまで本当に達しているので、ご不便をおかけする面も今後出てくるかもしれないが、とにかくこのような協議会の場で皆さんと連携しながら、なるべくご不便が生じないように努めていきたい。引き続き安全、安心な運行に努めていくので、ぜひご利用をお願いしたい。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。続いて飯能市タクシー協議会様、いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>今、バス事業者各社からあったとおり、夜間が厳しい状態である。期待していたが午後8時以降は利用が止まってしまう。本来であれば稼ぎ時であるがそのような状態であり、また、廃業した会社もある。当社は元加治駅近辺で主に仕事をしているが、飯能市役所や平松団地など、採算度外視で呼ばれた際は行くようにしている。とにかく全面的に宣言等が解除されて、夜が少し賑やかになればいいと思っている現状である。おそらく前年比6割くらいの状態と思うが、そのような中で市からも支援金をいただけることに本当に感謝したい。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。続いてJR東日本様、お願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>当社は、全体的にバス、タクシー各社の皆さんと同じ状況で、2019年比で7割前後の数字となっている。特に八高線については八王子～高麗川までを管轄しているが、それを下回り、66%くらいで非常に厳しい状態である。マイカーを使われる方が増えているからか、かなり定期収入も落ち込んでおり、観光についてはご存じのとおり、ゴールデンウィークもお盆も引き続きかなり厳しい状態である。黒字化を目指して営業をしているが、なかなか難しい実感がある。とはいえ、当社では働き方改革や意識改革をしながら、新たな鉄道事業を目指していくので、2次交通のバス、タクシーの皆さまや地域の皆さまと連携を深めて、今までと違ったJRで頑張りたい。今後ともご支援をお願いしたい。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p>

委員	<p>他の委員の皆さまから何かございますでしょうか。</p> <p>今日の感想みたいなものとなるが、未来をつくる会議だと感銘を受けた。公共交通を守る・育てる・つくるというのがキャッチフレーズをとにかく大事に してかないといけない。一人ひとりの市民のためにこれだけの関係者が真剣に 未来のことを考えてやっているんだ、ということをもっと知ってもらえるよう な活動を私もやっていかないと感じた。先ほどのノーマイカーデー の「わたしたちの行動は、わたしたちのまちの未来を変える！」という言葉に もあるように、この協議会は現在どうしようかという会議であるが、実は未来 を変える、未来に対して一歩踏み出す、そういう会議でもある。私は「ふだん の 暮らしの しあわせ」、「ふくし」をキャッチフレーズに、すべての人が幸 せに暮らせる社会をつくろうという、はんのうふくしの森プランを進めている 会議の代表だが、そこでもこの協議会の皆さんの考え方を合わせてやっていけ ることがあるのではと思うので、たくさんPRしていきたいと思う。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p>
委員	<p>私は名栗街道の新寺の道沿いに40年近く暮らしている。コロナ禍になり、 今までにないくらい車とバイクと自転車が多い状態であることが印象的であ る。異常に増えている。バス利用者、公共交通利用者が当然減り、そういう移 動手段を使っているんだろうと思う。</p>
会長	<p>ありがとうございました。 他にございますでしょうか。</p>
委員	<p>(なし)</p>
会長	<p>よろしいでしょうか。それでは、以上で本日の議題はすべて終了いたしまし た。長時間に渡りご協力をいただき、ありがとうございました。事務局に進行 をお返しいたします。</p>
事務局	<p>会長、議事の進行ありがとうございました。また委員の皆様、活発な意見交</p>

事務局	<p>換ありがとうございました。4その他については、事務局から次回の協議会についてご連絡いたします。</p> <p>(次回協議会について、12月に書面開催の予定である旨伝えた。)</p> <p>(「路線バス途中下車の旅」(石井委員主催)について連絡した。)</p> <p>それでは以上をもちまして、第15回飯能市地域公共交通対策協議会を閉会とさせていただきます。長時間にわたるご議論、ありがとうございました。</p> <p>(閉会)</p>
-----	--